

東山地区 地域ケア地区会議・ 生活支援ネットワーク会議を開催しました！

7月13日（火）、北部公民館にて地域ケア地区会議と生活支援ネットワーク会議を合同で開催しました。

今回のテーマは「認知症」で、実際にみなさんの周りでもありそうな事例をもとに、認知症初期の高齢者が、この町で安心して住み続けるために、「自分たちに何ができるのか」を考えて意見交換をしました。

参加者は、歯科医や薬剤師、福祉事業所等の専門職と、町内会長や民生児童委員等の地域住民です。

専門職からは、「受診していなくても、気軽に薬局の薬剤師に相談すると良い」、「歯が原因で体重減少することもある」、「服薬管理の手段としてお薬ロボットの活用もある」等、専門的な立場からの支援に対する提案やヒントを頂きました。



▲グループに分かれた話し合いの様子



▲地域ケア地区会議の様子



▲生活支援ネットワーク会議の様子

地域住民同士でのグループワークでは、「認知症＝施設入所と考えるのではなく、地元で認知症のことを理解したサポーターを作ると良い」、「隣近所でさりげなく見守っていく」、「理事や組長など町内役員が役割の中で見守り、記録する」等、多くの具体的な意見を頂き、地域でできることを考えることができました。

今回の会議内容やグループワークでの意見を踏まえて、各町内福祉委員会にて見守り活動や生活支援の体制について町単位で検討を重ねながら、今後もよりよいまちづくりを目指していきます。

9月は 「世界アルツハイマー月間」

認知症への理解を進めるため、国際アルツハイマー病協会は、9月21日を「世界アルツハイマーデー」と制定しています。

この機会に「認知症」について、考えてみませんか。